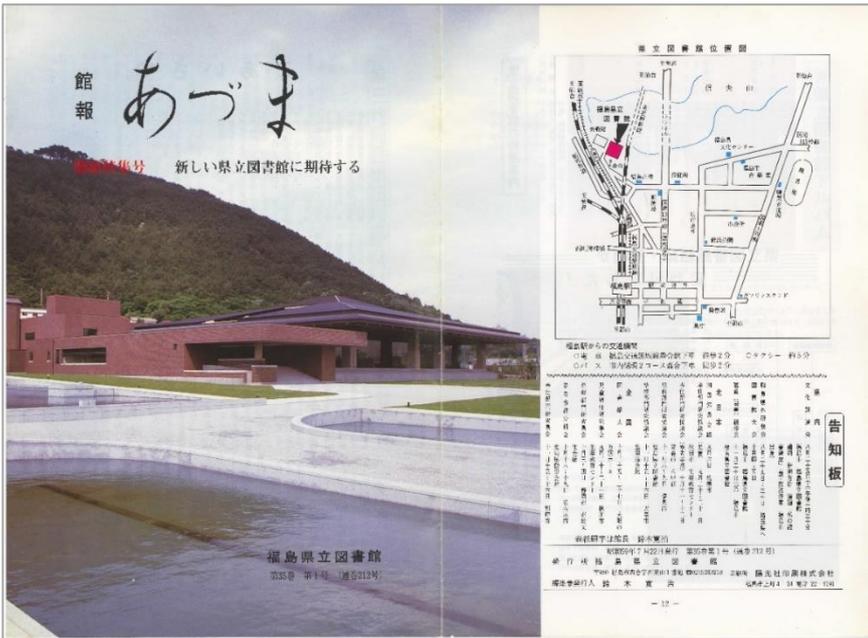
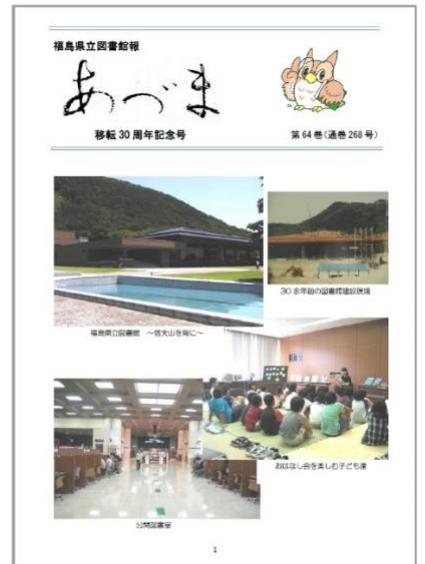


あづま



開館特集号 表紙・裏表紙 昭和 59 年 7 月 22 日発行



移転 20 周年記念号 表紙
平成 16 年 7 月 22 日発行

移転 30 周年記念号 表紙
平成 26 年 7 月 22 日発行

森合に移転して40年に

福島県立図書館長 深谷 一夫

日頃より、福島県立図書館をご利用、ご支援いただきありがとうございます。

当館は、昭和59(1984)年7月22日、ここ森合に移転し、令和6(2024)年7月で40年を迎えます。昭和4(1929)年2月の設立、同年10月の開館からは95年を迎える年でもあります。この間、多くの方々にご利用いただき、また、多くのご支援とご協力をいただいたことに感謝を申し上げます。



当館は約125万冊の蔵書等を有し、利用に供していますが、これらは長きにわたる収集・整理・保存の成果であると言えます。当館が収集してきた資料の中には、企業や団体等から寄贈をいただいたものも多数あります。多くの方々に支えられて今がある、そうした思いを忘れず、職員一同、今後の図書館運営に携わっていきたいと思います。

さて、近年を振り返ると、平成23年3月の東日本大震災や令和3年2月と令和4年3月の福島県沖地震では、建物等に被害が生じ休館を余儀なくされました。また、新型コロナウイルス感染症対策では、非常事態宣言の発令を受けた臨時休館や、閲覧スペース等の利用を制限するなど、図書館を利用される皆様には、大変ご不便とご迷惑をおかけした時期もありました。

今年度は、森合移転40周年記念事業として、「福島を生きる講座」や関連する展示などを開催していきます。この節目の年に、是非、ご来館いただけたらと思っております。

話題は変わりますが、最近、『お探し物は図書室まで』(青山美智子/著 ポプラ社 2020.11)という本を読みました。数年前に購入したのですが読んでおらず、ふと「図書室」というワードを思い出し再び手に取ったというのが実情です。内容は、町の小さな図書室に、仕事や人生に行き詰まりを感じている人々が訪れると、図書室の司書が思いもよらない本をセレクトしてくれ、それを読んだ本人が本当に探しているものに気づいていくという話です。この本のようにはいかないかもしれませんが、図書館・図書室としても、利用される方々に新たな気づきや発見を提供できれば幸いです。

森合に移転した40年前から比べると、社会の在りようは大きく変化しました。図書館に求められる機能や役割も変化してきています。ですが、図書館が「新たな気づきや発見」を得ることができる場であることは変わらないと思います。県立図書館は、これからも、

- ① 県民のための図書館として、県民の役に立ち、等しく利用できる図書館を目指します。
- ② 子どもたちの読書活動や学びを支えることができる図書館を目指します。
- ③ 県民がどこにいても図書に親しみ、必要な資料を利用できるよう県内の図書館・公民館・学校を支え、全県的な図書館活動の振興を目指します。
- ④ 「ふくしま」の資料を収集・保存し、いつでも、どこにいても「ふくしま」を知ることができる図書館を目指します。

私たちは、これからも県民に愛され、頼りにされる図書館を目指してまいりますので、県立図書館、さらには、県内の市町村図書館・図書室をよろしくお願い申し上げます。



福島県立図書館 移転後 40 年の歩み

福島県立図書館 移転開館前史

福島県立図書館は、昭和 4（1929）年 2 月に文部大臣より設立認可を受け、同年 10 月に開館しました。初代館舎は、福島市杉妻町の紅葉山公園内にあった元県立物産陳列館を改修したものでした。

その後、改築や新築のための一時移転を挟み、昭和 33（1958）年 11 月に二代目の館舎となる福島市松木町の建物（現・福島市立図書館）に移転しました。

現在の館舎は三代目で、昭和 59（1984）年 7 月 22 日に福島市森合の地に開館しました。今年で移転開館後 40 年となります。



本館舎 1 階
 〒980-0854 福島市森合 1-1-1
 電話 0246-21-1111
 福島県立図書館 建設課

年表で見る移転 40 年 ～ 10 年

昭和 59 年 7 月 22 日 新館開館

建物が完成した当時の写真です。
開館式典は講堂で行われ、約 400 人が参加。
この日最初に図書館に来た人は、なんと朝 6 時に
到着していたそうです。



昭和 59 年 9 月 19 日 移転開館 50 日目・来館者数 10 万人突破

昭和 60 年 6 月 6 日 第 36 回北日本図書館大会を福島市で開催(～7 日)

昭和 60 年 9 月 30 日 「ふくしまの女性たち」発行

昭和 61 年 4 月 11 日 児童室のコンピュータ導入稼働開始



以前は貸出カードに 1 冊 1 冊書名を記入していたため、
時間がかかっていました。電算化したことにより、
効率的に貸出処理ができるようになりました。
当時のカードは、現在とデザインも異なります。

昭和 61 年 5 月 福島県立美術館・図書館が第六回東北建築賞を受賞

昭和 61 年 5 月 22 日 協力車運行開始

昭和 61 年 7 月 22 日 福島県行政資料コーナー設置

昭和 63 年 3 月 16 日 堀切文庫(法律関係資料)寄贈

昭和 63 年 10 月 6 日 昭和 63 年度全国公共図書館整理部門研究集会を福島市で
開催(～7 日)

昭和 63 年 7 月 入館者数 100 万人達成 ※移転開館後

昭和 63 年 8 月 30 日 『福島県立図書館だより』創刊

平成元年 7 月 26 日 (財)日本宝くじ協会より移動図書館車「あづま号」寄贈

5 代目あづま号。今のあづま号より少し大きめでした。



平成元年 10 月 1 日 福島県内大学図書館間相互利用制度発足

平成元年 12 月 12 日 当館キャラクターの愛称が「ごろすけ」に決定

石川郡浅川町の小学生が名付けてくれました！



平成 2 年 11 月 22 日 書庫内電動書架増設完成

平成 4 年 1 月 入館者数 200 万人達成 ※移転開館後

平成 4 年 6 月 4 日 第 43 回北日本図書館大会を福島市で開催(～5 日)

年表で見る移転 40 年 ~ 20 年

平成 6 年 6 月 1 日	福島県立図書館情報ネットワーク(コンピュータ)導入計画調査委託
平成 6 年 12 月	福島県立図書館情報ネットワーク事業基本計画策定
平成 7 年 11 月	福島県立図書館情報ネットワーク事業概要、詳細設計委託
平成 8 年 1 月	『児童図書研究室ニュース』創刊
平成 8 年 4 月	福島県立図書館情報ネットワーク事業 館内業務システム開発委託

このころ、福島県立図書館公式ウェブサイトが
仮稼働しました。(本稼働は平成 11 年度)



平成 8 年 9 月 26 日	平成 8 年度全国公共図書館参考事務研究集会開催(~27 日)
平成 9 年 5 月 22 日	入館者 300 万人達成 ※移転開館後
平成 11 年 4 月 1 日	福島県立図書館情報ネットワーク事業本稼働

ネットワークシステム導入効果で、この年(平成 11 年度)
の貸出冊数は 16 年ぶりに 15 万冊を越えました。

平成 11 年 6 月 1 日	「福島県立図書館利用規則」の一部改正(平日の開館時間 19 時まで 延長)
平成 12 年 4 月 1 日	地方分権一括法の施行に伴い「福島県立図書館設置条例」及び「福 島県立図書館利用規則」の一部改正
平成 12 年 5 月 31 日	第 51 回北日本図書館大会を福島市で開催(~6 月 1 日)
平成 13 年 8 月	入館者 400 万人達成 ※移転開館後
平成 13 年 11 月 20 日	(財)日本宝くじ協会より 移動図書館車「あづま号」寄贈

この時寄贈された 6 代目のあづま号。
今も現役です!



平成 13 年 12 月 1 日	館内空調設備工事のため休館(~平成 14 年 3 月 31 日)
平成 15 年 10 月 14 日	情報ネットワークシステム更新

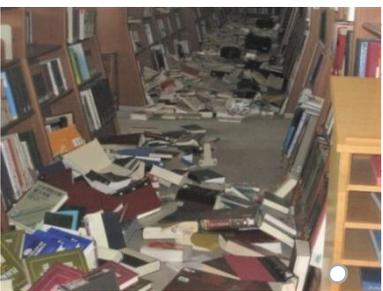
予約・貸出状況がウェブから確認できるように。
また、郷土資料を閲覧できるデジタルライブラリー
が開始されました。

この時の横断検索対象館は
福島市立・郡山市立・県立
図書館の 3 館のみでした。

平成 16 年 2 月 6 日	横断検索システム稼働開始
平成 16 年 7 月 22 日	移転 20 周年記念「星空ライブー音楽と朗読の夕べ」開催(~25 日)

ライブコンサートや朗読イベント、図書館探検、
展示企画などが行われました。

年表で見る移転 40 年 ～30 年

平成 17 年 10 月	福島県立図書館のあるべき姿「学びの環境づくり」策定
平成 17 年 11 月	入館者数 500 万人達成 ※移転開館後
平成 18 年 1 月	個人からのインターネット予約開始
平成 18 年 10 月	「福島県立図書館利用規則」の一部改正により祝日開館の実施
平成 19 年 6 月 14 日	第 58 回北日本図書館大会を福島市で開催(～15 日)
平成 19 年 10 月	県民参加型「ロビー展示」開始
平成 19 年 11 月 6 日	平成 19 年度図書館地区別(北日本)研修を当館で開催(～9 日)
平成 20 年 3 月	「県民を支える図書館」アクションプランの策定及び実施
平成 21 年 2 月 28 日	カウンター体制の見直し(総合案内、貸出登録、調査相談に統合)
平成 21 年 4 月 1 日	福島大学との図書館利用相互協力協定に基づく運用開始
平成 21 年 10 月 1 日	情報ネットワークシステム更新
平成 21 年 11 月	入館者数 600 万人達成 ※移転開館後
平成 22 年 1 月	「福島県立図書館利用規則」一部改正(特別整理期間及び様式改正)
平成 22 年 1 月 20 日	小型車更新
<p>協力車として県内各地の図書館を巡っています。 令和 6 年 5 月時点で走行距離は 24 万キロ超！</p> 	
平成 22 年 4 月 19 日	学校図書館支援のための「セット貸出」開始
平成 22 年 7 月 27 日	書庫西側電動書架増設完成
平成 23 年 3 月 11 日	東日本大震災による被災
平成 23 年 7 月 15 日	公開図書室を除き一部開館 資料宅配サービス(個人)の全面实施
平成 23 年 12 月 8 日	福島大学、県立医科大学との 図書館利用相互協力協定締結
平成 24 年 4 月 20 日	災害復旧工事(設備)竣工
<p>平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災では、福島県立図書館も大きな被害を受けました。 その後、平成 24 年 4 月 28 日に公開図書室の利用を再開し、6 月 30 日には全館復旧となりました。</p> 	
平成 24 年 4 月 28 日	公開図書室利用再開 東日本大震災福島県復興ライブラリー・子育て支援コーナー設置
平成 24 年 6 月 20 日	災害復旧工事(建築)竣工
平成 24 年 6 月 30 日	新聞記事閲覧システム供用開始
平成 24 年 11 月 8 日	平成 24 年度北日本図書館連盟研究協議会を福島市で開催(～9 日)
平成 25 年 3 月	福島県立図書館アクションプラン(第 2 次)策定及び実施
平成 26 年 6 月 19 日	第 65 回北日本図書館大会を福島市で開催(～20 日)
平成 26 年 7 月	移転 30 周年記念事業実施
<p>国立国会図書館長文化講演会、図書館探検、おはなしかい、華道展などが行われました。</p>	

年表で見る移転 40 年 ~40 年

平成 26 年 10 月 1 日	情報ネットワークシステム更新	
平成 26 年 11 月 18 日	平成 26 年度図書館地区別（北日本）研修を当館で開催（～21 日）	
平成 27 年 4 月 1 日	国立国会図書館と当館職員との相互実務研修開始 （1 名 2 年間で 3 期実施）	
平成 27 年 10 月 18 日	入館者数 700 万人達成 ※移転開館後	国立国会図書館への初めての 実務研修は、緊張し どおでしたが、勉強に なることばかりでした。
平成 28 年 9 月 13 日	県民のくらし応援文庫設置要綱制定	
平成 29 年 1 月 17 日	故長田弘氏蔵書寄贈 長田弘文庫開設	
平成 29 年 2 月 5 日	長田弘文庫開設 記念事業を実施	
平成 30 年 3 月 9 日	福島県立図書館アクションプラン（第 3 次）策定	
平成 30 年 10 月 4 日	平成 30 年度北日本図書館連盟研究協議会を福島市で開催（～5 日）	
平成 30 年 11 月 20 日	ILL（相互貸借支援）機能の施行開始	
平成 31 年 4 月 1 日	SNS（Twitter：現 X）による情報発信の本稼働	
令和元年 11 月 12 日	令和元年度図書館地区別（北日本）研修を福島市及び白河市で開催 （～14 日）	
令和 2 年 2 月 1 日	サピエ図書館の運用開始	感染症への対応として、 除菌機を設置しました。
令和 2 年 3 月 4 日	新型コロナウイルス感染拡大防止のため 閲覧スペースの座席数の制限等対策開始	
令和 2 年 4 月 19 日	新型コロナウイルス感染拡大による 非常事態宣言の発令を受け臨時休館 （～5 月 15 日）	
令和 3 年 1 月 1 日	情報ネットワークシステム更新	
令和 3 年 2 月 13 日	福島県沖地震で被災	
令和 3 年 2 月 14 日	地震の影響により臨時休館（～3 月 10 日）	
令和 3 年 3 月 11 日	障がい者サービス専用カウンターの設置	
令和 3 年 6 月 17 日	第 72 回北日本図書館大会福島大会を オンライン開催（～30 日）	資料の落下・散乱のほか、 窓ガラス破損など、建物へ の被害もありました。
令和 4 年 3 月 16 日	福島県沖地震で被災	
令和 4 年 3 月 17 日	地震の影響により臨時休館（～23 日）	
令和 4 年 3 月 29 日	福島県立図書館アクションプラン（第 4 次）策定	
令和 4 年 4 月 28 日	入館者数 800 万人達成 ※移転開館後	
令和 4 年 5 月 9 日	災害復旧工事のため臨時休館（～7 月 7 日）	
令和 5 年 10 月 18 日	令和 5 年度図書館地区別（北日本）研修を当館で開催（～20 日）	
令和 6 年 3 月	新聞記事閲覧システム更新	
令和 6 年 3 月 19 日	団体貸出室電動書架増設完成	
令和 6 年 7 月	森合移転 40 周年記念事業	

福島県立図書館の在りよう —40年前といま—

福島県立図書館 専門員 吉田 和紀

昭和59年7月22日、12時45分、図書館の正面玄関を望む屋外において、福島県知事、地元児童の代表者ら7名による開館セレモニーのテープカットが行われた。福島県立図書館が、ここ森合の地に開館した瞬間である。快晴であったことを覚えている。この日の入館者は3,545人であり、その後40年間これを超える日は無い。

この年の4月1日、私は新規採用職員として福島県立図書館に着任した。自分の住む町に図書館がなかったため、高校時代に何度か利用したことはあったが、それは以前の県立図書館であって、この新しい図書館には、何か圧倒されるものを感じた。ワンフロアの公開図書室・書庫など、建物の規模もそうであるが、何か学究的施設としての雰囲気もあった。

福島市に図書館が無かったこともあり、旧館時代は市立図書館としての役割も果たしていたと考えられるが、当時はまだ、第二線図書館^(※1)としての県立図書館の存在が言われていた時代でもあり、さらに、福島市立図書館の再開館も予定されていたことなどから、新県立図書館に求められていたのは「県立図書館らしさ」であったと推察される。事実、「(新)福島県立図書館建設委員会」が示した最終報告書では、その役割・性格を「図書館のための図書館」であるとし、県民への直接サービスについては、「県内の図書館設置状況^(※2)から判断するに考慮せざるを得ない」との表現にとどめている。具体的機能についても「資料保存センター」「相互協力センター」「調査相談センター」を掲げ、開館時、公開図書室には5つの主題別カウンターを置き、それぞれに専任職員が配置された。児童サービスも「児童図書研究室」を活動の建前とし、「こどものへや」はその一環として運営、組織的には市町村支援の部署として置かれていた。資料の購入はベーシックな専門書が中心であり、読み物(現代小説)に対しても、受賞図書など何らかの価値判断が求められていた。

しかしながら、図書館を取り巻く環境の変化と共に福島県立図書館も変わり続け、現在の姿がある。役割の第一は市町村支援であることに変わりはないが、県民に対する直接サービスの環境づくりも積極的に図られてきている。平成14年度の部制施行により、児童サービスは館内サービス部門の一つとして位置づけられた。平成20年度には、カウンターの再編成が行われ、現在の「登録・貸出」「調査相談」の2カウンター制により利便性の提供を目指した。また、令和2年度には、読書バリアフリー法の成立を受け障がい者サービス専用カウンターも設置した。幅広い収集を行わなかった現代小説も、計画的収集を行いその需要を満たしている。加えて、本を借りる・読む、調べ物・勉強といったそれまでの目的型の図書館から、ちょっと寄ってみようかといった滞在型の図書館、いわゆる生活の中の一つの「場」としての図書館づくりにも気をかけている。

インドの図書館学者ランガナタンは、「図書館は成長する有機体である」と言った。まさに図書館は社会の情勢を把握し、利用者のニーズを知り、利用者が必要とする情報を伝えることで成長していく。この先10年後、20年後、福島県立図書館はどのような成長を遂げているであろうか。

(※1)：第一線図書館(住民に直接サービスを行う図書館=市町村図書館)への資料・情報等の援助を行う図書館のこと。

(※2)：この時、県内の図書館設置自治体数は90市町村のうち12市町、県立図書館が所在する県北管内は二本松市のみ。

福島県地域資料寄贈のお願い

福島県立図書館では、郷土の過去・現在を未来へ伝える資料として、福島県に関する資料や福島県にゆかりのある方の著作物を収集・保存し、県内外の方にご利用いただいています。

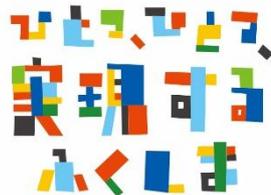
地域資料とは次のような資料です。

- 福島県や県内各地域に関する資料（歴史、民俗、地誌など）
- 福島県内企業・団体・行政機関等の発行した資料
- 福島県内に在住する方、または福島県出身の方の著作
- 福島県にゆかりのある方の伝記

※ 図書だけでなく、フリーペーパー、雑誌、地図、パンフレット、CD、DVDなども収集しています。

※ 東日本大震災に関する資料は特に重点的に収集しています。

上記のような資料を刊行された際は、当館へ2部（保存・貸出用）ご寄贈いただけるとたいへん嬉しく思います。また、地域資料の蔵書を処分される際にも、ご一報ください。



図書寄贈の記録

以下の団体をはじめ、多くの方々から図書のご寄贈をいただきありがとうございました。
寄贈いただいた資料は、当館の活動を通じて広く県民の皆様の利用に供してまいります。

県民のくらし応援文庫（敬称略）

- 一般財団法人ふくしま未来研究会 261冊（50万円相当）[令和6年1月17日]
- 福島ヤクルト販売株式会社 28冊（5万円相当）[令和6年2月29日]

その他の寄贈（敬称略）

- 一般財団法人福島県教職員互助会 1141冊（220万円相当）[令和5年11月17日]
- 国際ソロプチミスト福島 56冊（10万円相当）[令和6年1月24日]
- 国際ゾンタ福島ゾンタクラブ 29冊（5万円相当）[令和6年2月2日]
- 日産自動車株式会社 62セット（124冊）（県立・市町村図書館、公民館分）[令和6年3月7日]
- 東京大学アイソトープ総合センター 秋光信佳 62冊（県立・市町村図書館、公民館分）[令和6年3月9日]

『福島県立図書館報あづま』 第73巻（通巻277号） 移転40周年記念号

令和6年7月22日

発行 福島県立図書館

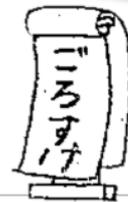
〒960-8003 福島県福島市森合字西養山1番地

電話 024-535-3218(代表) URL <https://www.library.fcs.ed.jp/>



Chi.

福島県立図書館
森合移転 40 周年記念
2024 年 7 月 22 日



福島県立図書館 キャラクター「ごろすけ」について

初登場は昭和 63 年 8 月 30 日発行の『福島県立図書館だより』第 1 号。

「ごろすけ」という名前は、平成元年 12 月に公募により決定しました。

『館報あづま』には、平成 2 年 3 月 31 日発行の第 40 巻第 3 号（通巻 229 号）で初掲載されました。

誕生から 36 年が経った今でも、当館の利用カードや広報誌、ウェブサイトなど様々な場面で活躍中です。これからもどうぞよろしくお願いいたします。